

説 教

聖日礼拝

北浜チャーチ

黒田禎一郎

2018年7月1日（日）

主 題：「平和の神からの祝福」

－ 祝祷の祝福－

テキスト：ヘブル人への手紙13章20－25節

はじめに

- ・私たちは、ヘブル人への手紙を長らく学んできました。いよいよ最後のところに来ました。すばらしい「祝祷」をもって終わります。その幸いな祝祷について学ぶ前に、著者は「なぜ」このような「祝祷の形式」をとったのか考えてみましょう。
- ・皆さんは、教会の聖日礼拝に出席しています。礼拝をどのように受け止めて（理解）していますか。讃美チームの美しい讃美歌を聞き、またともに歌う場（？）と理解していますか。あるいは、牧師の説教を聞くために（？）集っておられるのでしょうか。またある方は、文字通り安息日ととらえてただ静かに、身を置いておられるかも知れません。
- ・しかしある方は、安息日は雑多で多忙の生活から離れ、心を静め、神からの安息のことばをいただくために出席している、と言われます。
- ・では、日曜日の安息日礼拝とはどんなものでしょうか。
一般的に、プロテスタント教会では次のような礼拝形式です（多少の相違あり）。
 1. 礼拝へ招き（前奏、招詞、罪の告白、讃美）
 2. 神のみことば（聖書、祈禱、讃美、説教、聖餐）
 3. 感謝の応答（讃美、祈禱、献金）
 4. 祝福（頌栄、祝祷、後奏）と応答（アーメン）
- ・私たちの教会の礼拝も内容的に、だいたいこのような形式です。この礼拝形式を静かに見るならば、私たちの礼拝とはどんなものであるかが分かります。（順に黙想してみてください。）
中でも、終わりの部分の「頌栄」と「祝祷」は礼拝で大切であることが分かります。
- ・「頌 栄」は多くの場合、讃美です。それは礼拝者の全存在をあげて、神をほめたたえ、父・子・御霊（三位一体）の神にすべての栄光をお返しすることです。それは私たちの地上の生涯が、最後には「頌栄」をもって閉じられることを示しています。

- ・「祝 禱」は、神の祝福を神の宮の祭司である牧師が祈るものです。それは、私たちの人生最後に神の祝福があり、世界の歴史もまた神の祝福によって、その完結を見ることを示しています。ですから、礼拝は生ける神に出会う所です。そこで神からみことばをいただき、感謝を捧げ、神に応答し、神から祝福を受ける所です。聖徒はそれに対して、「アーメン」と唱和するものです。
- ・北浜チャーチでは、聖書に出てくる初めの「祝禱」と呼ばれる「アロンの祈り」（民数記6章）がなされています。そして礼拝の最後に、主の前に跪き、主の祝福を受け、私たちはアーメン（ほんとうです。真実です）と応答し、全栄光を主に帰するものです。民数記6章

6:24 『主があなたを祝福し、あなたを守られますように。

6:25 主が御顔をあなたに照らし、あなたを恵まれますように。

6:26 主が御顔をあなたに向け、あなたに平安を与えられますように。』

- ・ところで、ヘブル人への手紙13章では、2つの「祝禱」（13:20-21, 25）で終わっています。後者の「祝禱」は短いので、前者の「祝禱」から神のおこころを学びたいと思います。

大切なポイント

1. 神の聖徒たちへの勧め

1) 勧めのことば

- ・13:22 兄弟たち。このような勧めのことばを受けてください。私はただ手短かに書きました。

「勧めのことば」とは、この手紙のことです。「勧めのことば」とは、説教とも訳せるフレーズです。ですから、この書簡は説教であるとも解することができます。

- ・私たちはこの書簡は13章にもわたる長い手紙（説教）であり、そして内容が濃厚であると思いますが、ユダヤ的背景を持つ人には、そうではありません。著者は「手短かに書きました。」と言いました。つまり、「要点だけを手短かに書いたものである」と言うのです。著者は、要点だけを書いているのだから、注意して欲しいと言います。
- ・このことから分かることは、当時の信者たちも私たちと同様、忍耐に欠けている人が少なからずいたのではないかということです。そうでなければ、こんなことを言う必要はなかったでしょう。
- ・いつも大事な真理を身につけるには、忍耐が必要です。信仰生活における忍耐の重要性については、パウロは次のように教えています。

ローマ人へ手紙 5 章

- 5:2 またキリストによって、いま私たちの立っているこの恵みに信仰によって導き入れられた私たちは、神の栄光を望んで大いに喜んでいます。
- 5:3 そればかりではなく、患難さえも喜んでいます。それは、患難が忍耐を生み出し、
- 5:4 忍耐が練られた品性を生み出し、練られた品性が希望を生み出すと知っているからです。

2) 聖徒によろしく

・ヘブル人への手紙 1 3 章

- ・ 13:23 私たちの兄弟テモテが釈放されたことをお知らせします。もし彼が早く来れば、私は彼といっしょにあなたがたに会えるでしょう。
- ・パウロは第二回伝道旅行の時、ルステラで出会った若い信者テモテを伝道旅行に連れて行きました。テモテはパウロから訓練を受け、やがてすばらしい伝道者となりました。
- ・ピリピ人への手紙、コロサイ人への手紙、フィレモンへの手紙の冒頭では、テモテもパウロと一緒に獄中にいたことが記されています。彼も信仰のために獄にいましたが、ここでは彼はすでに釈放されていたようでした。ここで分かることは、テモテは、この読者と親しい関係にあったと思われます。さらに著者は次のように言っています。
- ・ 13:24 すべてのあなたがたの指導者たち、また、すべての聖徒たちによろしく言ってください。イタリヤから来た人たちが、あなたがたによろしくと言っています。
- ・クリスチャン同士、喜びも悲しみも共にするということは、大きな特権です。

{例 話}

- ・一般的に欧米社会でのあいさつは、握手を交わします。日本では頭を軽く下げて腰を軽く曲げて、相手の前であいさつをします。欧米人が、しっかりと握って固く交わすあいさつは、そこになにか意味が込められているものです。
- ・互いにあいさつを交わすことができる関係は、じつに幸いです。犬猿の仲になれば、あいさつは交わされることは少ないことでしょう。キリスト者は「聖徒に、よろしく！」と言える関係です (大切)。皆さんは、互いにどんな「あいさつ」を交わしておられるでしょうか。
- ・このように著者は「勧めのことば」を語り、そして「聖徒によろしく」と書きました。そしてさらに、聖徒たちにとって最も大切な「祝祷」を語り、この書簡を閉じようとした。

2. 聖徒への神の「祝祷」

- 13:25 恵みが、あなたがたすべてとともにありますように。

著者はこの書簡を閉じるにあたり、このように祝祷で終わっています。これは2つの「祝祷」の后者のほうです。

この后者の祝祷は簡単なものですので、はじめの「祝祷」の方を考えてみましょう。

1) 神が与えてくださる「祝祷」

13:20 永遠の契約の血による羊の大牧者、私たちの主イエスを死者の中から導き出された平和の神が、

13:21 イエス・キリストにより、御前でみこころにかなうことを私たちのうちに行ない、あなたがたがみこころを行なうことができるために、すべての良いことについて、あなたがたを完全な者としてくださいますように。どうか、キリストに栄光が世々限りなくありますように。

アーメン。

- この聖句をよく読むならば、正確には20節、21節aまでは「祝祷」であることが分かります。そして21節b「どうか、キリストに栄光が世々限りなくありますように。」は「頌栄」であります。
- 私たちは、祝福は神から来ることを知っています。その祝福の神は「平和の神」です。平和というのは、ただ争いや戦争がないというだけではありません。一致、調和、繁栄、健康をも意味します。恨みや憎しみがなく、そこにあるものは愛であり満足です。
- ですから平和は、あらゆる問題を解決し、あらゆるものを健全にすること、つまり救いを意味します。そういう平和を与えてくださる神が、私たちに祝福を与えてくださるのです。その神は、どんな神でしょうか。

2) 羊の大牧者である「平和の神」

13:20 永遠の契約の血による羊の大牧者、私たちの主イエスを死者の中から導き出された平和の神が、

- 私たち人間はアダムの罪の墮落以来、生まれながらの罪人です。そのため、最後には裁かれ、滅びなければなりません。ところが、あわれみ深い神は、私たちを救うために、尊い一人子イエス・キリストをこの世に遣わされました。御子は私たちと同じ人間となり、この世の悩み、苦しみをすべて味わわれました。そして最後に、私たちの罪を背負い十字架上で、身代わりの刑罰を受けて死なれました。
- イエス・キリストこそ、そのお方です。このお方を自分の救い主と信じる人を神はお救いくださいます。ですから「永遠の契約の血による羊の大牧者」

と著者は言いました。イエス・キリストが十字架上で流してくださった御血は、私たちの罪を贖う永遠の神の契約のあかしです。

- ・ヘブル人への手紙の著者は9章で、こう述べました。

9:22 **それで、律法によれば、すべてのものは血によってきよめられる、と言ってよいでしょう。また、血を注ぎ出すことがなければ、罪の赦しはないのです。**

神はご自分のひとり子イエスが十字架で流された血によって、見事に実証してくださいました。

- ・羊飼いは羊を守るため、一生懸命働きます。羊がオオカミに襲われるならば、命をはって守ります。イエスは言われました。ヨハネ福音書

10:11 **わたしは、良い牧者です。良い牧者は羊のためにいのちを捨てます。**

- ・父なる神は御子イエス・キリストが十字架上で、永遠の償いを成し遂げられて死なれた時、それを「よし」とされました。それが「**私たちの主イエスを死者の中から導き出された**」ということです。十字架上の死と復活によって、私たちに救いを用意してくださった神が「平和の神」なのです。
- ・このお方は、私たちに何をしてくださったのでしょうか。

3) 「祝祷」は神の祝福

- ・それは2つあります。

① 神のみこころにかなうこと

「御前でみこころにかなうことを私たちのうちに行なう」 13:21

- ・私たちがみこころにかなった何かよいことを行う前に、神ご自身がみこころにかなったことを私たちにしてくださるのです。さらに御子は：

② みこころを行えますように

あなたがたがみこころを行なうことができるために、すべての良いことについて、あなたがたを完全な者としてくださいますように。 13:21

- ・聖徒は神のみこころを受け、御心にかなうことを行うことができるように、とあります。神は私たちの必要をすべて用意し、満たしてくださいます。
- ・クリスチャンになると、何とかして神の御心にかなったことをしたいと考えるものです。しかし、少し考えると神のみこころにかなうことが成就していることを覚えます。つまり、「みこころの成就」は神の御手の内にあることです。それはすばらしいことです。
- ・私たちが試練に出会い、四面楚歌の苦難下に置かれた際、どんな祈りをするのでしょうか。ある方は、「もう祈るしかない！」と言います。あるいは「もう祈っても無駄でしょう」と言います。しかし別の人は、「**いいえ、祈りこそ力です!**」と言います。その人は生ける神を知っている人です。神の腕に

抱かれた人です。あなたは、そのどちらでしょうか……。

- ・パウロは言いました。ローマ人への手紙

12:2 この世と調子を合わせてはいけません。いや、むしろ、神のみこころは何か、すなわち、何が良いことで、神に受け入れられ、完全であるのかをわきまえ知るために、心の一新によって自分を変えなさい。

- ・ここでパウロは、「心の一新によって自分を変えなさい。」と述べています。心の一心とは何でしょうか……？それは神のみこころを知る道のことです。何が善であり、神に受け入れられる道であることを知ることです。それは、⇒自分主体の考え方から、神主体の考え方に変えられると「神のみこころ」が分かり、御心になつた生き方をすることができるようになります。
- ・自分中心の考え方から、神中心の考え方になります。それが「心の一心によって」です。それができると、神のみこころになつた生き方は自然にできるようになるものです。努力や決心ではありません。「祝祷」とは、このことを宣言しているのです。

13:21 あなたがたがみこころを行なうことができるために、すべての良いことについて、あなたがたを完全な者としてくださいますように。

- ・私たちは神の祝福を期待し、「祝祷」が宣言されることによって、力づけられます。大牧者である「平和の神」が、そのような生き方にしてくださるからです。神はそのようにしてくださいます。ですから私たちは、祝福の宣言である「祝祷」を感謝し受けるものです。そして「アーメン」と唱和し、称え合うのです。そこには大きな力があります。

ま と め

主 題：「平和の神からの祝福」

一神からの祝祷一

- ・私たちは、安息日礼拝で受ける「神からの祝祷」について学びました。いかがでしょうか……？ あなたの礼拝は、今日から変わるでしょうか。
- ・神の「祝祷」の意義を、次のようにまとめることができます。
 1. 大牧者である「平和の神」が「祝祷」くださる
 2. 「祝祷」は神のみこころ成就のためである

* God bless you!